



365ときどき1

木村 凌和

2014/11/3-自己紹介

はじめまして。木村凌和（きむら りお）と申します。

端から見て名前が読めないので自己紹介をすることにしました。

ただ随分前に決めたペンネームなので自分でも読み方に無理があると思っています（笑）

素直に「しのぐわ」と読んで頂いても大丈夫です。

執筆歴は小学校低学年から。記憶が曖昧なので数えるのはやめました。

数年前に自作ホームページで書いてきた文章を公開してきましたがtwitterの流行に乗って更新から疎遠に。

以降小説投稿SNSでときどきオリジナル、二次創作文章を公開しています。

オリジナルのネタのストックはファンタジーばかり。群像劇好きなので書くのもそればかり。

現在こちらで長年頭の中で育ってきた話を販売しようとプロットを詰めているところです。

それにはきっかけがあります。

先日ある小説投稿SNSに文章を投稿しました。その夜、コメントが34件きて小躍りするという夢を見ました。

コメントを頂いたことは過去数回しかありません。どうせ夢ならもっとたくさんきた夢にすればいいものを、34件ですよ。その夢でわかりました。私はSNSで有名になってちやほやされたい訳では無い、小説家になりたいわけではないということがわかりました。

そして昨日、また夢を見ました。

声優志望だったが諦めてしまった友人が、私の書いた小説を原作にした劇に出演するという夢でした。夢の中で私はその小説を一章しか書いてなく、劇にしたのは劇団の脚本家でしたが、原作者として紹介されたのは私でした。私は罪悪感と嬉しさで、もっとちゃんと小説を書こうと決意しました。

その夢でわかりました。私は、小説でお金を稼ぐという夢と決別しようとしているということなのです。私は私に友人のように諦めろと諭されたように思いました。

私は落ち込みました。落ち込んでいます。こんなときにこんな長文を書ける場所が思いつかずここに書くことにしました。ミニブログは便利ですがこんなとき不便です。

でも私の長年の夢と決別するために、今のストックをちゃんと書こうと思います。その決意を、ここに形にさせて下さい。

今とりかかっている話の短編を置いていきます。

2014/11/10

一週間ぶりですか。

プロットは確定しましたがブラック勤めでろくに時間をとれずなかなか進みません。

今まで何度となくプロットを練っては捨て練っては捨ててきたものですがあの悪夢を思い出すと胃が痛くて捗りました。

胃が痛くて書きたいのに時間をとれず非常に焦ります。この調子ではいつ公開できるのか見当がつきません。

決別するために書いているのにこんな文章が書けたのかと驚くことがあり複雑な心境です。

私は私が嫌いですが、私が私を唯一認めていられるのは文章を書けるからです。

夢と決別するだけなのに自分自身を否定するために死刑台に向けゆっくり先の見えない階段を上っている気分。

2014/12/14

お久しぶりです。

仕事を言い訳にしばらく書くことから逃げていました。

気分転換に少し前に思いついたものの形にならないSFものを書いてみたので見て頂けると嬉しいです。

2015/1/19

お久しぶりです。

気がいたら三ヶ月も続きも書かず他の文章に浮気していました。が、それも中途半端にまた書き始めたところです。

何百字書いても話が進まない気がしています。

なんだか行き詰まってしまっ書きたいところだけつまみ食いしてみたのが「風まかせ2」です。なぜ2なのかというつまみ食いした順に通し番号を振っているだけだからです。長編の中での整合性もとれるかよくわからないエピソードなので、仕舞っておくのも勿体なくて出してみました。

ずっと頭の中でこの二人の関係性がぐるぐるして、形にできたのが嬉しかったというのがあります。思うように書けたときの満足感というか、私の中でだけ生きていた人たちに外に見えるよう形を与えてやれた達成感というか、そういったものはまた格別ですね。

2015/6/27

お久しぶりです。

販売予定の長編を書いていたのですが、行き詰まってしまってほうぼうで序盤だけ公開しています。

パブーでも連載形式で5, 6週かけようかとしましたが時間がありませんでしたので、一気に掲載しました。

色々な機能を使いこなすのってなかなか頭を使いますね。

どうしても描きたい二人がいるのに二人とも掴みきれなくて二転三転してしまいます。それがやっとな掴めたような気がするのですが、私は自分で生み出したキャラクターにどれだけ夢を見ていたのかと少し落ち込みました。二人の幸せを想像してもしっくりこないのに、悲劇的な結末にするのは嫌だと思ってしまうんです。だからこの二人は主人公に頑張ってもらって幸せにしてもらおうかと思立ちました。

構想を練り直すまではわくわくしてできるんですけどねえ……。

2015/7/4

一週間ほど様子を見てみましたが反応は全くありません。

一方では膨大な作品の中で埋もれてしまって、一方では見られてるけど読まれているかはわからなくて、ここではどうなのでしょう…。閲覧数は伸びているので割と人目には触れているのかな、と勝手に思っています。

反応を待つと疲れちゃうので、人目についてつらつら考えていました。

人目というか、こういう場で新しく小説を読むときって確かによほど面白くないと評価なんてしないよなあ、とか、そもそも感想が言えるほど話が進んでないなあ、とか。